

第Ⅱ章 実践事例

◆小学校編

- 1 片づけが苦手なAさん * 見てわかる支援で
- 2 人の話をさえぎるB君 * ハンドサインでルール作り
- 3 Cさんの入学式を成功させよう * イラストプログラムの活用
- 4 授業に集中することが難しいD君 * 授業の流れを一定に
- 5 話し方、聞き方が身につけていないEさん * 国語でコミュニケーション能力UP
- 6 日程の変更に対応できないF君 * スケジュール表で見通しを
- 7 掃除をしなないGさん * 手順表とカラープレートの活用
- 8 雨が降りそうになると怖がるHさん * リラックスルームの活用
- 9 こだわりが強いIさん * やくそくカードの活用
- 10 みんなと並ぶことができないJ君 * ソーシャルストーリーの活用
- 11 人の物を勝手に使ってしまうKさん * ソーシャルスキルトレーニング
- 12 一人でいることが多いLさん * ソーシャルスキルトレーニング
- 13 健康診断で学校医を怖がるM君 * ロールプレイングで不安を解消
- 14 避難訓練で困惑するNさん * イラスト本「防災ずきんのひみつ」
- 15 マラソンに大会をいやがるO君 * マラソンすごろく&イラスト本の活用
- 16 新しい活動にトラブルが多いPさん * 保護者と取り組むメモの活用
- 17 授業中騒いで落ち着かないQさん * 学習の約束を確認
- 18 学習課題を避けようとするR君 * サポートルームの活用と校内支援
- 19 自己表現が苦手なSさんとTさん * 国語に特別支援教育の視点を入れて
- 20 先生の話聞いていないU君 * 道徳でのイラスト活用
- 21 友達との関わりに自信が持てないV君 * みんなで唱える新出漢字
- 22 学級の子どもの計算力を高めたい * 毎日取り組む10分計算
- 23 自己中心的な言動の多いX君 * 総合的な学習の時間で話し合い活動
- 24 算数のプリント学習が難しいYさん * 教室環境の見直しと計算タイムの工夫
- 25 集団行動で指示の理解が難しいZさん * 運動会の用具係りで見通しを持たせる工夫
- 26 教室を抜け出すAさん * 読書好きの長所を生かして
- 27 レポートを書くことが苦手なBさん * 得意なパソコンを活用して
- 28 配慮を必要とする子どもが複数在籍 * 生活科の体験学習での配慮
- 29 自閉症・情緒障害特別支援学級のEさん * 算数「大きな数」の学習

◆中学校編

- 1 友達とトラブルになるKさん * ルールの理解と言語化
- 2 課題に取り組まないLさん * 特別支援教育コーディネーターとの連携
- 3 口げんかや家庭での暴言が多いMさん * 話し合い活動でコミュニケーション!
- 4 授業の理解が難しいNさん * 特別支援学校との連携で支援の検討
- 5 個別指導が必要なO君 * 校内支援体制の整備と生徒に寄り添う支援
- 6 パニックになり逃げ出すK君 * トラブル対応マニュアルと校内連携
- 7 作文を書くことが苦手なLさん * キーワードメモの活用
- 8 提出物を出さないMさん * 通級指導教室との連携で行う数学
- 9 知的な遅れが見られるNさんのいる学級 * “共存・共生”の意識をはぐくむ道徳
- 10 自閉症・情緒障害特別支援学級の生徒に * 自己選択・自己決定を促す創作活動
- 11 中学校卒業後の進路に悩む生徒 * 通級指導教室での指導

◆参考資料

指導・支援の目的と支援の内容リスト No.1～5

第Ⅱ章 実践事例


事例編について

- 1 タイトル・・・前半に子どもの課題，後半にどのような支援をした事例なのか，わかるようにタイトルをつけました。

例)

片づけが苦手なAさん * 見てわかる工夫で！

- 2 内容・・・次のような項目で整理してあります。
「どうしてかな？」には，子どものようすの背景要因として考えられるものをあげています。

- 子どものようす (実態)
 - どうしてかな？ (考えられる背景要因)
 - 教師の関わり方 (人的環境の見直し)
 - 環境・場面の設定 (物理的環境の見直し)
 - 教材・教具の工夫 (学習環境の見直し)
 - どうなったのかな・・・(指導・支援の結果)
 - こんな工夫も (他の場面などへの応用)
-  HINT!! (各事例に関連する情報を載せています)

- 3 実践事例の活用に関して

自閉症の特性があっても，子どもの実態や取り巻く環境は，一人一人異なります。事例は，子どものようす（実態）から指導・支援を検討し，取り組んだものですが，子どもによってあてはまらない場合があります。その場合は，「HINT」などを参考に，子どもの実態や背景要因（仮説）に合わせて工夫していきましょう。

※千葉県総合教育センター特別支援教育部のホームページに，本書の事例を含め，小・中学校約40の事例を掲載していますので，ご活用ください。

<http://www.ice.or.jp/~i-tokubetu/>





片づけが苦手なAさん * 見てわかる工夫で！

● 子どものようす

整理整頓が大の苦手なAさん。教室中Aさんの物が散乱しています。先生は「ちゃんとしましましょう」と、毎日、何回も注意していますが、落ちている物は減るところかどんどん増えていきました。

どうしてかな？

- ◆言葉での注意や声かけは、Aさんに聞こえない。
- ◆どうやって片づけたら良いのか、片づけ方がわからない。
- ◆片づける場所がわからない。
- ◆片づけるための時間がない。



● 教師の関わり方

① 優先順位を決める

多くの子ども達は、片づけよりも、遊びの方に夢中になるものです。したがって、「～したら〇〇する」という優先順位を取り決め、学級全体で確認しました。

「これをしまってから、外に遊びにいきましょう。」「消しゴムをひろって筆箱にいれたら、好きな図鑑をみていいですよ。」「水とうを拾ってロッカーの上においてから昼休みにしましょう。」「この鉛筆を筆箱にしまったら家にかえります。」などです。このとき、あまり否定的にならないように言い方を工夫しました（「これをしないと給食ぬきですよ。」は、避けたい否定的表現）。

② 一つクリアしたらほめる

まずは、教科書とノート。それから筆箱の中身。色鉛筆、クレヨンなどと、一つずつクリアしていくようにしました。一つでもできたら、ほめていきます。できて当たり前ではなく、当たり前のことができていたらほめるようにしました。

「できるようになりたい」「先生にほめられたい」と思う気持ちは、自閉症のある子どもも、みんなと同じように持っています。がんばりが認められれば、先生のことを好きになるし、またやろうという気持ちもできます。そういった良いサイクルを築くようにしました。

● 環境・場面の設定

なかなか片づけができない子どもは、Aさん以外にもたくさんいます。「きれいにしましましょう」とか「ちゃんとしましましょう」と言っても、何をどうしたらいいのかわからないと思われれます。やる気は、あってもやり方がわからないため、何もしないことが考えられますので、次のようにしました。

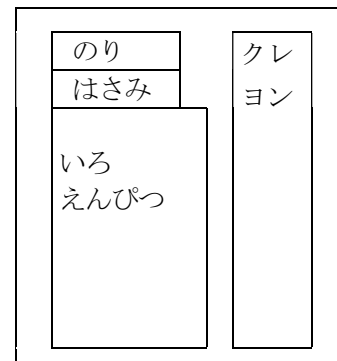
◆ 引き出しの工夫

教室の机の引き出しは二つになっていることが多く、Aさんの引き出しも同様でした。そこで、一つは、毎日持ち帰る教科書やノートを入れ、もう一つは「おとまりの引き出し」にして、色鉛筆やクレヨンなどを入れるようにしました。

◆ 片づけ方の掲示

引き出しの中は、どうなっているのがいいのか、お手本を絵や写真でわかりやすく表し、教室内に掲示しました。

Aさんには、表示を引き出しに貼っておきました。



<Aさん用引き出し表示>

- ・それでも細かいものがしまえない場合、定着しない場合は、「赤青鉛筆を筆箱のここに」、「このピンクの色鉛筆はここに」というように一つ一ついねいに一緒にやってみようようにしました。
- ・時間がない場合は、大きなかごや段ボールを机の脇に置いて、全てのAさんの道具をその中に入れておき、帰りにまとめてしまうという方法をとることになりました。

● どうなったのかな・・・

- ・引き出しの図を意識し、確認しながらしまうようになってきました。
- ・教師が丁寧に関わることで、落ち着いて片づけを行うようになりました。

● こんな工夫も・・・

- ・一斉指導の中でできない子どもには、机の中に表示を直接貼る、引き出しに仕切りを作って分類しやすいようにするなどの対応をすることも考えられます。

右は、「つくえのなか」を図で示したものを掲示している例。右下のように写真を撮り、掲示する工夫もあります。

引き出しの他に、靴箱やロッカー、棚、体操服入れを下げるフックなどに、記名シールや本人の好むマークを貼ったり、どのように整理すれば良いか、見本を掲示したりするなど、子どもの反応を見て工夫していきましょう。



<教室掲示物「つくえのなか」>



道具箱として持ち運び
ができる引き出しケース



HINT!!

写真や図示で、整理の仕方を具体的に示すことは有効な場合が多いようです。個別に対応する際は、保護者とよく相談して行いましょう。片づけを定着させるためには、学校と家庭が同じような支援をすることが大切です。



人の話をさえぎるB君 * ハンドサインでルール作り

● 子どものようす

B君は、自分の意見や思いを優先してしまい、授業中に人の話をさえぎって手をあげて、「はい！はい！」と連呼します。発表できなかつたり、自分の思いがうまく伝わらなかつたりすると、大声をあげて授業を妨げてしまいます。

どうしてかな？

- ◆発表の仕方（スキル）が身についていない。
- ◆発表したいという自分の気持ちが抑えられない。
- ◆クラスみんなに「すごい」と言われたい。
- ◆他の人の話を「聞く」スキルが身についていない。
- ◆授業を妨げると、他の人に迷惑がかかるということが予想できない。



● 環境・場面の設定

B君は、自分の思いを言葉で表現することが苦手であるにとらえ、ハンドサインで自分の思いを伝えることができるようにしました。

発表時の対応

- ① 学級の児童が見やすい場所として、黒板の傍らに、ハンドサイン表「思いを伝えよう」を掲示する。
 - ・グー：意見
 - ・チョキ：質問
 - ・パー：感想
- ② B君については、3回の挙手で1回の指名をするようにし、他の児童に比べて発表の場を多く設けるようにする。
- ③ 他の児童については、挙手したことや、指名されなくても我慢したことをほめるようにする。
- ④ 学級のルールとして「はい」を言っても指名はしないことを確認する。



<ハンドサイン表>

● 教師の関わり方

- ① 発表のルールを、見本を示しながら説明する。
- ② 対象児童がハンドサインのルールが分かり、学習に参加できた時はほめる。
- ③ ルールが守れている児童の発表の仕方を誉め、どのようにすればよいか、よい手本を示す。
- ④ ルールがよく理解できていない時は、発表のルールを、その都度確認する。

● どうなったのかな・・・

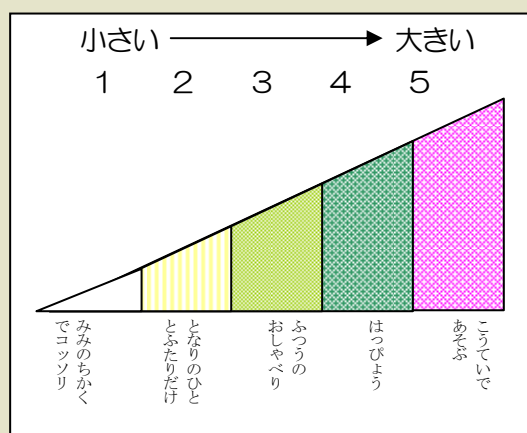
- ・ハンドサインを活用したことで、教師が子どもの思いをつかむことができました。また、子どもは、「はい。はい。」と言わなくても、自分の思いを伝えたという満足感を得ることができました。
- ・発言できる場の確保をしたことで、友だちの話に耳を傾けることができるようになりました。
- ・B君を含め、全ての子ども達が、聞く場面と発表できる場面の区別をつけられるようになってきました。

● こんな工夫も・・・

- ・発表の時に怒鳴ったり、叫んだりする子どもには、声のものさしを使って、自分の声の大きさを客観的、視覚的にとらえられるようにすると効果があります。

声のものさし

- ◆ 声の大きさを1から5までの数字でレベル表示したり、「ひそひそ」「友達との会話」「発表するとき」「歌声」「体育の応援」などの言葉にしたりして、どんな時にどのくらいの声の大きさが良いのかを「ものさし」にして、視覚的に表したものです。



<かいじゅう君>

- ◆ B君には、「かいじゅう君」を活用し、口から出す赤い炎の大小で、自分の声の大きさを確認できるようにしました。
また、落ち着かなくなった時に「感情のものさし」としても使用しました。自分の心の状態を、かいじゅう君の炎の大きさと確認させ、教師は感情を共感する声かけをしながら安定するのを待ちました。
やり方については、B君が落ち着いている時に、遊びながら教えるようにしました。



HINT!!

自閉症のある子どもは、コミュニケーションや想像することの困難さという特性がありますが、相手に伝えようとする内容を広げ、伝えるための手段を身につけていくことは大切なことです。それにより、子どもたちの社会性が育つと、その場にふさわしい行動や他者から期待されている行動をとることができるようになります。



Cさんの入学式を成功させよう

* イラストプログラムの活用

● 子どものようす

Cさんは、高機能自閉症の診断を受けています。小学校の入学にあたり、入学式に落ち着いて参加できるかどうか、保護者は心配していました。

どの子どもたちも緊張する入学式ですが、特にCさんは、初めての場での不安が強いため、声を出したり立ち上がったりののではないかと思われました。

どうしてかな？

<初めての場面は>

- ◆何をいつまでするのかなど、経験のないことに見通しが持てないことへの不安がある。
- ◆お母さんや家族などから離れてしまうと、不安になる。
- ◆新しい環境や、場所の広さへの不安がある。
- ◆大勢の人やざわざわした声、放送などの大きな音が苦手である。



● 教師の関わり方

学校生活のスタートとなる入学式の成功は、その後の小学校生活にも影響する場合があります。Cさんが初めての場でどのような反応をするのか、予想される行動への対応を行うようにしました。

<入学式までにしておくこと>

- ・入学式までに保護者と話し合いの場を持ち、Cさんの情報を収集しておく。
- ・Cさんと保護者に小学校に来てもらい、教室や体育館の座席、出入り口等を確認すると共に、式場の雰囲気慣れてもらう。
- ・入学式の流れをイラストや文字（ひらがなが読める子ども）で示して確認する。
- ・職員会議でCさんについての情報や対応について全職員で共通理解しておく。
- ・担任は他の子どもたちの様子も見ながら式に参加するため、担任以外でCさんに対応する職員を決めておく。*支援を要する子どもが複数いるため、複数決めておきます。

● 環境・場面の設定


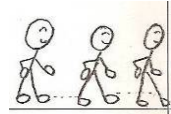





- ・靴箱、教室の机・いす・ロッカー、体育館のいす等に名前をはっきりと書き、Cさんに自分の物がわかるようにしました。
- ・何かあった時の対応のために落ち着ける場所（リラクスクーナー）をつくりました。
- ・Cさんは大きな音が苦手であるため、体育館では、入場行進を演奏する楽器から、離れた場所に座席を設定するようにしました。また、担任や保護者の席は、Cさんの様子が確認できる場所に設置しました。



● 教材・教具の工夫

入学式の次第を紙に書き、内容をイラストで示したスケジュール表を事前に渡しておきました。当日は、それを示しながら、終わったら「入学式・スケジュール表」に丸をして、あとどのくらいで入学式が終わるのか、見通しが持てるようにしました。

＜入学式・スケジュール表（一部）＞

にゅうがくしき にゅうがくおめでとう なかよくしようね			
	こななかんじ	やること	がんばること
1		1-□の きょうしつに にはいります	①おうちのひとと1-□ にいきましよう おともだちがいます。 おともだちをおほえよう
2		にゅうじょう 9じ25ふん	①おともだちやせんせいと たいいくかんににゅうじょうします
3		はじめの ことば	①きょうとうせんせいが あいさつします きょうとうせんせいが おじぎをしたら おじぎをしましよう
4		「うた」 こっか こうか	①どんな「うた」かな、よくきいてみましよう
5		たんじんの せんせいの はっぴょう	①たんじんのせんせいほだれかな？ 1ねんせい 1-1 1-2 1-3 1-4 2ねんせい 3ねんせい 4ねんせい 5ねんせい 6ねんせい たんぽぽ1 たんぽぽ2 ひまわり つうきゅう しょくいんしつ じむのせんせい
6		みんなの なまえ	①おおきなこえで へんじをしましよう □□さん「はい」
7		こうちょう せんせいの おはなし	①○○こうちょうせんせいです。 なまえをおほえてね。 ②しずかにきましよう

※終わったらお母さんに会えるよ！

※Web上には、スケジュール表を全て掲載しています。

● どうなったのかな・・・

- ・「入学式・スケジュール表」を見て、一つ終わるごとに○をつけたことで、終わりに近づくことに安心感を持って式に参加することができました。
- ・イラスト付のスケジュール表に効果があったので、運動会や、文化祭など、他の行事にも応用しました。一つの行事が終わるごとに成長が見られました。



HINT!!

行事は、一日のリズムが普段と異なり、来客などで人の数も増えるなど、周囲の環境が通常と異なります。これは、変化の苦手な子どもにはつらいものです。何をやるのか、いつ終わるのか見通しを持たせる工夫が大切です。



授業に集中することが難しいD君

* 授業の流れを一定に

● 子どものようす

D君は、小学校1年生。どの教科も、通常の学級で十分対応できる学力を持っています。しかし、授業中はいたずらをしたり、ぼーっとしたりすることがあり、最後まで集中することが難しいようです。

どうしてかな？

- ◆集中できる時間が短く、注意がそれやすい。
- ◆学習のルールがわからない。
- ◆口頭による説明や指示だけでは、理解が難しい。
- ◆文字を書くことや、読むことなど、苦手なことがある。



● 教師の関わり方

- ・授業のルールをクラス全体で繰り返し確認するようにしました。
- ・「上手な聞き方カード」を児童の机に貼ったり、教師が持ち歩いたりしながら、できているところに丸をつけたり、できていないところにチェックをしたりして意識づけるようにしました。
- ・できていないところをすぐに修正した時は、その場で丸をつけてほめるようにしました。

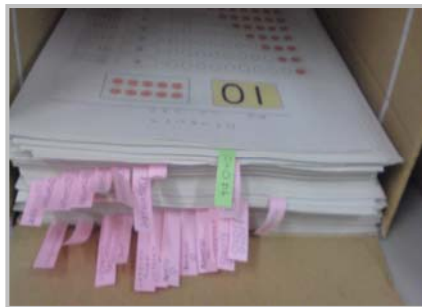
● 教材・教具の工夫

(1) 学習の流れを一定にする

- ・「こくご」や「さんすう」等、学習の流れを一定にし、小黒板や紙に書いて常に確認できるよう提示しておくようにしました。

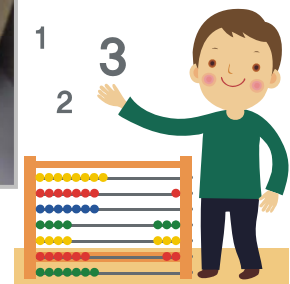
例) 「国語」 1：おんどく 2：口のたいそう 3：ことばあつめ
 4：本 5：プリント ドリル 6：おたのしみ学習

- ・時間中に「5：ドリル」まで終わったら、どの子も教師がいくつか用意した「おたのしみ学習」を行うという約束にしておきました。

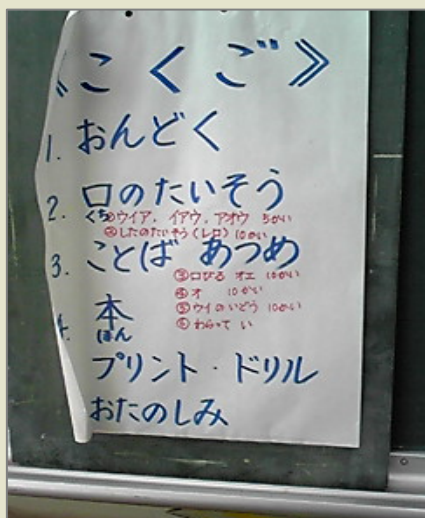


＜おたのしみ学習＞

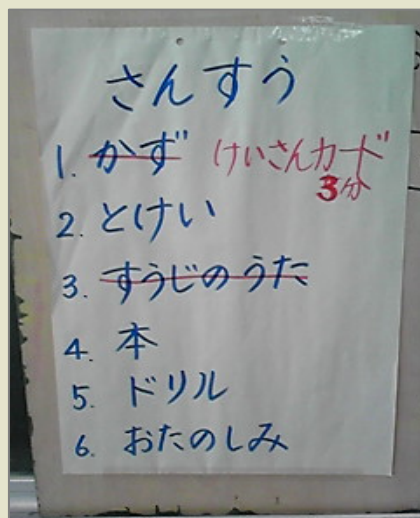
- ・トレイや棚に学習課題を入れて、準備をしておきます。



<こくごの授業の流れ>



<さんすうの授業の流れ>

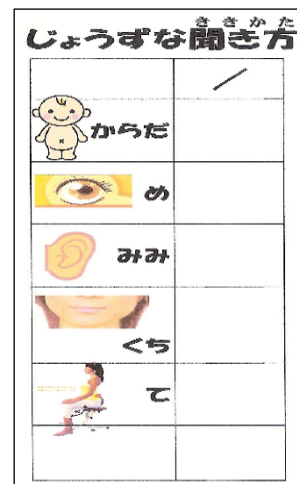
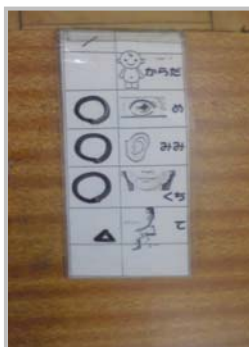


- ☆授業の流れを紙に書いて、ていじしておきます。
- ☆変更があった場合には赤ペンで訂正したり線を引いて消したりします。
- ☆口頭でも説明します。

(2) 上手な聞き方を意識させる

- ・「じょうずな聞き方」カードを作成し、体、目、耳、口、手をどのようにして授業を行えばよいのか、確認するようになりました。
- ・1時間の授業後に、聞き方を振り返りました。

- | |
|---------------|
| 体・・・話し手の方に向ける |
| 目・・・話し手を見る |
| 耳・・・すます |
| 口・・・閉じる |
| 手・・・膝の上におく |



<机上にカードを貼った例> <上手な聞き方カード>

● どうなったのかな・・・

- ・毎時間の学習の流れを一定にし、前に掲示しておくことにより、学習の見通しが持てるようになり、自分で流れを見て学習を進めることができるようになりました。
- ・「上手な聞き方カード」を提示することにより、自分で行動を修正できるようになりました。担任が注意をする回数が減り、D君も穏やかに過ごせるようになりました。



HINT!

聴覚情報の処理がうまくできない場合でも、目で見える形で伝えることの効果が出てくると、自分で意識して修正できるようになってきます。



話し方、聞き方が身についていないEさん

* 国語でコミュニケーション能力UP

● 子どものようす

通常の学級には、普段のおしゃべりは楽しんでいても、学級活動や学習の場面となると、なかなか自分の考えが言えない子どもや、いざ発表となると声が小さくなってしまふ子どもがいます。聞いているまわりの子ども達の方は、聞こえなくてもそのままにして、興味を持って聞こうとしなくなってしまうという悪循環が生じてしまいます。そのような学級に在籍するEさんは、学習でわからないことがあったり、できないことがあったりするとパニックを起こすことがありました。

● 教師の関わり方

どうしてかな？

- ◆気持ちの伝え方がわからない。
- ◆どのように言葉で表現するのか、言葉が思い浮かばない。
- ◆人の話を聞く姿勢が身についていない。
- ◆学級の子も達に、聞き方・話し方が身についてないため、Eさんが混乱する。



Eさんに配慮しながら、学級の子も達への伝える力や聞く力を高めていきたいと考えました。学級の子も達への伝える力や聞く力が高まれば、Eさんの言いたいことを読み取ることができますし、お互いが良いモデルとなることで高め合うこともできます。

指導案の中には「配慮を必要とする児童への特別な支援」の項目を入れました。それにより、授業を考える上で、アイコンタクトや声かけ、ワークシートの工夫など、様々な点で配慮する視点を持つことができるようになりました。

● 環境・場面の設定

国語「二人で話そう」展開例

◆学習のねらい

- ①知らせたいことを選び、事柄の順序を考えながら、相手にわかるように話す力を育てる。
- ②大事なことを落とさないようにしながら、興味を持って聞く態度を育てる。

◆指導計画（6時間扱い）

1時～2時	・友達と組になり、相手の話を受けて交互に話す。
3時～4時	・話題「すきな〇〇〇」について二人組で話す。 ・話を続けるには、どんなことに気をつけたらいいか話し合う。
5時	・相手の話をよく聞いて、話題の内容を深める質問の仕方を考える。
6時	・いろいろな話題で、状況を変えて二人で話す。

◆本時の目標◆（1/6時間）

- ・友達と組になり、相手の話を受けて交互に話すことができる。
- ・大事なことを落とさないようにしながら聞くことができる。

☆配慮を必要とするEさんの個人目標

- ・教科書の挿絵を見て、話の続きを考え、ワークシートに書くことができる。
- ・ペアの友達と交代で話したり聞いたりすることができる。

◆展開◆ (1/6時間)

観	学習活動	支援 *評価	Eさんへの支援
5分	1 口の体操 (早口言葉・詩の暗唱)	・全員が声を出すよう隣同士が向かい合って言わせる。	・がんばって読んでいることを賞賛し、意欲を持たせる。 →視覚的にわかるように手でサインを出す
2分	2 学習のめあてを知る。	・(挿絵のように)二人で楽しく上手に話せるようになろうとする意識を持たせる。	・教科書の挿絵をしっかりと見させる。 →聴覚だけでなく視覚からも捉えやすいように絵を手がかりとする
35分	3 教科書〇〇ページの吹き出しの続きを考える。 ・吹き出しを音読する。 (男女で分担読み) ・書いたものをもとに、糸電話で練習する ・二人組で発表する。	・交互に話をし、互いに質問したり答えたりしていることを、分担読みでつかませる。 ・吹き出しの中の名前は、お互いの名前を入れ、意欲的に取り組めるようにする。 *ワークシートに交互に書けたか。 ・初めは読んでもいいが、ワークシートを見なくても話せるように指示する。 ・全員が発表できるように列で指名し、前に出て話させる。 ・列ごとに評価を入れる。 (聞く観点の確認) *相手の話を受けて質問したり答えたりして話が続いているか。 ・相手の話の内容を受けて答えたり、質問をしたりするとよいことを確認する。	・ワークシートに書けていない場合は、本人の好きな遊びを話題に出す。 ・Eさんの側に寄り、丸をつける。 ・二人で読む練習を始めていたら聞き、よいところを賞賛し、自信を持たせる。 ・話を交互に続けられたことを賞賛する。
3分	4 まとめと次時の予告を聞く。	・次時は、あいさつの続きから「放課後の遊びの誘い」をテーマに話す。	

<評価> ・友達と組になり、相手の話を受けて交互に話すことができる。
・かわるがわるに話したり、聞いたりすることができる。

● どうなったのかな・・・

- ・Eさんは、いきなり会話を始めようと思っても、難しいと考え、教科書の挿絵を参考に、話の続きを考えやすいように、ワークシートを作りました。Eさんは、ワークシートがあったので、それを手がかりに、相手の子と話をすることができました。
- ・普段の会話で糸電話は使いませんが、話をしたいという動機づけになり、どの子どもも興味を持って活動を行うことができました。
- ・発表後に良いところをほめたことで、Eさんも自信がついたようです。



HINT!!

正しい話の仕方を身につけさせることは、子ども達にとって必要な事です。直接、人と会話をする事が難しい場合は、糸電話や電話の模型などの使用で関心を高めます。

話し方の基本を定着させるためには、丁寧に繰り返し指導することが必要です。話し方の基本を掲示する場合があります。

